



岩手・沿岸部

豊かな食を育む三陸の海

春まだ浅く肌寒い。内陸のJR盛岡駅から沿岸部へ貸し切りバスで雪深い高原を抜けると突然、雪が消えた。全国2位の広さだけあって同じ県内でも大きく違う気候に面食らった。

最初の目的地、岩泉町は「日本三大」に数えられる名勝・名物が二つある。

地元のシンボル、龍泉洞は日本三大鍾乳洞の一つ。アイヌ語で「霧

「観光で復興応援を」

のかかる峰」を意味する宇羅山に抱かれ、世界屈指の透明度の地底湖を持つ。入り口脇のカフェでは「初恋ソフト」が1番人気。地元産ヨーグルトを使った甘酸っぱさと濃厚な味で、寒さも忘れペロリと食べた。

龍泉洞近くのうれいら商店街へ。レトロな町並みを歩くと、中ほどに泉金酒造がある。創業は幕末の1854年。日本三大杜氏で知られる南部杜氏が酒つくりを受け継いできた。「龍泉八重桜 大吟醸」は、兵庫産山田錦を使い、地底湖へわき出る水で仕込んだ逸品。口に含むと上質な香りが鼻に抜けた。

再びバスに乗り、浄土ヶ浜など三陸復興国立公園の景勝地が続く宮古市へ。お目当ては、名物・元

いかせんべいづくりを体験する人たち。宮古市、すがた花輪工場



祖いかせんべいの老舗、すがた。東日本大震災の津波で被災し、建て直された工場での手焼き体験が人気だ。イカの粉末と煮出し汁で作る素朴な味。4代目社長の菅田正義さん(56)は「私の代で閉めるわけにはいかないからね」と笑顔で話してくれた。

翌朝、新鮮な魚介がそろった宮古市魚菜市场へ出掛けた。「自分好みの海鮮丼を作れる」という。早速、白飯を総菜店で買い、鮮魚店を回ってマグロとサーモンの刺し身を購入。総額千円ほどでポリュ

メモ

大阪(伊丹)空港からいわて花巻空港は約90分、JR花巻空港駅からJR盛岡駅へは約35分。盛岡から岩泉町、宮古市へはそれぞれ車で12分、140分ほど。

1ム満点の海鮮2色丼ができた。豊かな海の幸を育む三陸の海岸線をバスで走り、本州最東端の重茂半島へ足を延ばした。天気恵まれ、きらきら輝く海は地元ブランドわかめ「春いちばん」の収穫期。しゃぶしゃぶにするのが一番という。さつとお湯にくぐらせるだけで鮮やかな緑色に変わり、ポン酢でつるり。さらに重茂漁協女性部のお母さんたちに、天ぷらやみそ漬けなど、わかめづくしの郷土料理を振る舞ってもらい、三陸の旬を堪能した。

ガイドをしてくれた岩手県北バス伊藤奈さん(22)の言葉が心に残った。「津波で大きな被害を受けたけど、沿岸部は見どころがたくさん。多くの観光客に来てもらい、復興を応援してもらえたら」。震災から4年。復興への歩みが続いている。(段 貴則)



「恋人の聖地」をうたい、町おこしする龍泉洞周辺。ハート形の竜のオブジェが観光客を出迎える。岩手県岩泉町



趣のある泉金酒造。地元の名産マツタケを使った地酒もある。岩泉町